



“住文化の研究” って??

住まいの絵本館の活動の大きな柱の一つは「住文化の研究」。1700冊の住まいの絵本も、一つのテーマ=切り口を通してみると、新たな見え方がします。2016年度のテーマは“音”。4月から月2回のペースで集り、住まいの絵本から音の持つ意味を探りました。

私たちの暮らしの中ではどんな“音”があるのでしょうか？ “音”はどんな意味を持っているのでしょうか？ 2015年度に行った、住文化をとらえる指標をベースに5つに分類し、表現されている絵本を探しました。文字で表現されていなくても“音”が感じられる絵本が多数ありました。まさに「絵本」だからわかるアプローチ！ 少し紹介すると・・・。

<生活の中の自然と開発の音>

昔の人は、自然と共に暮らしていました。風雨や動植物のたてる音を敏感に感じ取り暮らしていた様子が、数多く描かれています。自然の音は脅威でもあり、また暮らしに彩りを与えるものでもありました。

都市化により人工音が生活に入り込み、次第に自然の音が聞き取れなくなる様子から、暮らしの中での自然の音の大切さが伝わってきます。



<人・集団を結び付ける音>

歌声は直接に人の心をつなぐだけでなく、記憶と結びつき時や場所も超えて緩やかに人を結びつけていることが読み取れます。また私たちは声や楽器で様々な情報発信ができ、そして器械音よりも情報を伝える力があることに気づかされる絵本もありました。



<モノ・空間を通して人に働きかける音>

モノの音は多数描かれています。中でも調理する音は、のどかな日常の幸せな様子として描かれています。一方「幼い子がひとりで眠る時怖がる音」や音として表現されていない「無音・心理的な圧迫感」は、絵や色で人の心理や苦悩などが表現されており、絵本だからこそ感じとれるもので、絵本の面白さを教えてくれました。



AUTUMN EVENT 2016 (2016年11月19日)



谷直樹館長の講演



トークセッション



ワールドカフェの様子

お知らせ①

2016年度の報告書
ご希望の方は下記まで
お申し込みください。
(1冊2000円送料別)

sumainoehonkan@kxe.biglobe.ne.jp



お知らせ②

住まいの絵本研究会は、原則として月2回開催しています。今年度のテーマは“空間の多様性”。日程はHPで確認してください。

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~sumainoehonkan>